

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2015年版）|使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2015（v.1.0）

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都市新庁舎整備工事 分庁舎	階数	地上4階、地下2階
建設地	京都府京都市中京区寺町通二条下る榎木町450番地の1他	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	1,500 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,600 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年5月 予定	評価の実施日	2016年6月30日
敷地面積	8,716 m ²	作成者	池上 茂雄
建築面積	4,051 m ²	確認日	2016年6月30日
延床面積	23,800 m ²	確認者	山本 吉博



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.5 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算 ★★★★★

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 100%
②建築物の取組み 71%
③上記+②以外の 67%
④上記+ 67%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 4.1

LR のスコア = 4.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.7

3 設計上の配慮事項		
総合 大規模な中庭を設けた口の字型のプランとし、執務環境の向上を図りながら、周辺地域や通りとの内外空間の連続性を図った。 太陽光発電、井水利用などをはじめ徹底した自然エネルギーの利用。		その他
Q1 室内環境 外気処理システムの床吹出を採用、一部フロアで放射空調を採用。 中庭を活かした自然採光、自然換気。 照明のきめ細かなりモコン制御や明るさセンサーによる照	Q2 サービス性能 執務空間から緑を感じられるよう、中庭・壁面に積極的な緑を設置。 免震構造の採用、災害時の機能維持BCP対策を行った。	Q3 室外環境(敷地内) 前面道路に面した南面全面に屋上庭園を設置し、市民開放や通りへの景観を創出。 設備排熱は、屋上レベルで排熱。
LR1 エネルギー 方位によって視線制御と日射遮蔽を兼ねたルーバー等を配置、かつ外周部全域に庇を設け、外皮性能の向上を図った。自然通風、自然採光、地中熱利用、井水熱利用、太陽光発電、太陽熱利用等、自然エネルギーを積極利用。 BEMSによるエネルギー、機器効率の見える化。	LR2 資源・マテリアル 井水の雑用水利用。 リサイクル資材の利用。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ の低減。 雨水貯留槽設置による雨水流出抑制。 近隣敷地と一定の隔離距離をとり、温熱環境低減に配慮。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される